出稼ぎ経験を通じて生じるメキシコ系先住民移民の意識の変化に関する研究
-オアハカ州、サン・ファン・ミステベックを事例として-

A study on changes to the consciousness of Mexican indigenous migrants occurring through migration experiences

時空間デザインプログラム
13M43220 田中文滋 指導教員 土肥真人
Environmental Design Program
Bunji Tanaka, Adviser Masato Dohi

ABSTRACT
The unique culture of a locality enhances people's sense of belonging to it. However, as people have more opportunities to contact with external cultures, cultural homogeneity increased all over the world. Regarding indigenous people in Mexico, they are increasingly influenced by capitalism due to the North American Free Trade Agreement. By conducting interviews with 15 residents of an indigenous settlement, San Juan Mixtepec, Oaxaca, this study aims to reveal the influence of migration experiences on indigenous people. In conclusion, 1) migration experiences make people more conscious on capitalism; 2) they become more aware of the goodness of their home culture; 3) people put more importance on mobile phones than other electric appliances in order to communicate with their family members working as migrants outside the locality.

1 報告の概要
1-1 研究の背景と目的
土地が持つ特有の文化は人々の地域への帰属意識を高める。しかし外部の文化との接触の機会が増えたことにより、世界各地で文化的な均質化が進んでいる。本研究の研究対象であるメキシコ合衆国の先住民に関しても、北米自由貿易協定（NAFTA）等をきっかけとして資本主義の影響を受け始めた。農業等の終業者は生活があまりなかった人々が職を求めて出稼ぎを行うことで、外部の文化的な接触が増え、少しずつ彼らの文化は形によって一途をとっているという指摘もある。本研究では、外部への出稼ぎの多い先住民集落での調査を通じて、移民経験が彼らに与える影響を明らかにする。

1-2 研究の方法と構成【図1】
文献調査、フィールドワーク調査、現地ヒアリング調査を行った。構成は2章でメキシコ先住民移民に関する歴史的変遷や実態を把握し、3章でヒアリング結果を質問項目毎に見る。4章ではヒアリング結果から、出稼ぎ先を踏まえた各回答者の移民経験を見る。5章では、4、5章より得られた重要性の高いテーマに着目して分析・考察し、6章で総合考察・結論とする。

1-3 報告研究
メキシコ系移民に関しては社会学、文化人類学の分野にて多くの研究が存在する。特に本研究の対象とする移民に関する研究もあるが、本研究のように住民の意識調査をもとに分析を行い、移民移住、資本主義の関係に関して分析されているものは他にならない。

1-4 移民の定義
「通常の居住地以外の国に移動し、少なくとも12ヶ月間当該国に居住する人のこと」という定義が一般的であるが、国際的に合意されている移民の定義は存在しない。本研究ではメキシコ国内で一年以内の出稼ぎを行っていた者も含めて研究の対象とする。

2 章 メキシコ先住民移民に関する歴史的変遷及び先住民集落の実態
2-1 目的（省略）
第3章では文献調査を、第4章では文献調査及び【表1】に示したフィールドワークの結果を述べた。

2-2 方法
【表1】フィールドワーク調査の概要

<table>
<thead>
<tr>
<th>対象地</th>
<th>オアハカ州フストラウカ地区（サン・ファン・ミステベック周辺）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>調査方法</td>
<td>フィールドワーク調査（移民支援団体FIOBの活動に参加）</td>
</tr>
<tr>
<td>調査時期・頻度</td>
<td>2018年2月14日-3月13日、週5日程度</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【図1】調査構成
1章 研究の概要
2章 メキシコ先住民移民に関する歴史的変遷及び先住民集落の実態
3章 先住民集落と移民先の実態及び彼らの意識調査
4章 先住民集落と移民先をつなぐ住民の声
5章 住民の意識から見る移民行動と先住民集落の関係性
6章 総合考察・結論

【図2】研究対象地域概要
の差別の対象でもあり、多くの人権侵害が起きていた。特に先住民移民はその最たる例であった。そこで、1990年代頃より現地で先住民移民による市民団体が組織されるようになる。そのような団体が現地で先住民グループの連合体を結成し、現在ではFIOBという名で米国・メキシコの二国間で移民支援を行っている。

2-4 オアフカの先住民集落における文化・習慣

研究対象地が位置するオアフカ地区はメキシコ本土で一番先住民語の話す者が多い地域とされている。研究対象地であるサン・フアン・メスティベックはオアフカ州西部のフスタラウカ地区内に位置する地域である。当地域では雇用機会が十分にないために多くの住民が貧困生活を強いられている。総人口約7,600人のうちの83.2%が貧困層に該当し、45.5%が極端な貧困層に該当する。そのような状況によって家族を養うために多くの住民が外部に出稼ぎを行う。

2-5 章まとめ（省略）

3 章 先住民集落と移民先の実態及び彼らの意識調査

3-1 章目の

本章では多くの住民が出稼ぎを行う先住民集落を対象地として集落の現状及び移民に関わる等の実態及びそれらに関する住民の意識を明らかにすることを目的とする。

3-2 調査概要[表2]

オアフカ州のサン・フアン・メスティベックの住民を中心に計15名にヒアリング調査を行った。以下、各回答者はa〜nの記号で表記している。質問項目には①移民行為、②集落の現状、③故郷の文化、④移民支援の4つのテーマがあり、全てで14項目から成る。各質問への回答はまず選択肢から回答を選び、それについてより詳しい理由を自由回答形式で聞き取る。

3-3 質問結果

【図3】に各質問の選択回答の結果を示す。

3-4 章まとめ

【図3】の選択回答の結果及び自由回答の結果より以下のことがわかった。

①移民行為に関して（質問1〜7）
- 回答者のこれまでの経験より移民先は米国（長距離）、オアフカ州外のメキシコ国内（中距離）、オアフカ州内（短距離）に分ける事が出来る。
- それぞれ移民先は様々だが、フロリダ州ミシガン州（b,c,d）の事例のように家族・親戚で集まって同じ地域に移民をするようなケースもある。
- 回答者の多くが出稼ぎを始めた当時故郷を出たかったが、多くが「故郷が仕事がなかった」・「選択肢がなかった」としている。
- 回答者の多くが故郷に住みたいと回答しており、その多くが故郷の家族に関わる言葉している。
- 回答者の多くが移民は必ずしも重要ではないと回答しており、その多くが故郷でも貧しいながらに生活していることとしている。
- 多国籍企業の流入に関しては多くの回答者が賛成としているものの、ネガティブな意見も多く見られた。
- 回答者の多くが移民先でライフスタイルや資本主義に関わる何かしらの変化があったと回答している。特に資本主義に関して「故郷の雇用状況でも貧しいながらも生活していけると思うようになった。」や「移民先では必要以上にお金が必要・重要だと考えていた。」のようにお金にあまり執拗しないたいという意見が見られた。

②移民後の現状に関して（質問8〜10）
- 回答者のほとんどがインフラ及び公共施設の整備状況に満足だと回答している。特に教育機関及び医療機関への言及が多くみられ、それらの理由として高齢者の進む故郷の将来に言及するような意見も見られた。
- 回答者のほとんどがインフラ及び公共施設の整備状況には満足と回答していたものの、携帯電話以外の電化製品やテクノロジーに関してはそれほど執着していなかった。
- 「携帯電話のような新しいアンテナ、電波が欲しい。」や「携帯電話は家族とコミュニケーションをとるのに必要。」等、携帯電話に言及する意見が非常に多く見られた。これには外部に出稼ぎが多く、家族と離れ離れになることが多い土地柄に由来していると考えられる。
- 故郷の文化に関して（質問11〜13）

（注）「選択肢で選択肢はどのように実践されていたのか」については、選択回答と自由回答の内容を試みたため該当では結果を省略する。

【図3】質問項目ごとの回答一覧
・住民は言語や宗教、伝統衣装、音楽等を故郷の文化として認識している。
・この集落にもとどまる言語であるミステー語は住民にとって未だに重要であるという意見が見られた。
・出稼ぎを行っていた間も伝統音楽であるチェラは住民にとって大事な役割を担っていたと考えられる。
・伝統衣装は故郷でも移民先でも基本的には年配者しか着用しない傾向にある。

⑧ 移民支援に関する質問（質問14）
・回答者の多くが支援に関するFIOBのメンバーではないと回答しており、その多くが団体やその活動についてあまり知らないことを理由としている。

4章 先住民集落と移民先をつなぐ住民の声
4-1 章目の
本章では、回答者のこれまでの経験を考慮しながらインタビュー調査の回答結果を見ていく。それにより各ヒアリング回答者の人物像や彼らが置かれている環境、外部での出稼ぎが彼らにどのような影響を与えたのかを明らかにしていく。以降各言語には下線を引き、対応する回答内容を「回答者・質問番号・回答番号」として示した。

4-2 調査概要（3 回と同様、[表2]参照）
4-3 回答者の経歴と彼らを取り巻く環境に関する意識
出稼ぎを行った場所から、回答者15名は「米国での出稼ぎ経験有り」、①「オアハカ州以外メキシコ国内での出稼ぎ経験有り」、②「オアハカ州でだけ出稼ぎ経験あり」に分類された。ここでは各分類に該当する回答者1名ずつについての事例に取り上げ、詳しく見ていく。出稼ぎ先と各回答〔4図〕に示す。

①「米国での出稼ぎ経験有り」の事例（回答者c）
回答者cは1996年、当時彼女が18歳の時に親戚が集まって暮らす米国のフロリダ州ネーブルスに移り住んだ。現地で12年間出稼ぎをしたあと2008年に帰郷。当時を振り返り、移民生活をしたかったc2^2と語る。米国で出稼ぎを行えば故郷よりも良い生活ができると思っていたc2^2の理由は、過酷な労働環境c2^2に現地では精神的プレッシャーc2^2に強く、家族も離れた生活c2^2になり、彼女自身も生きる気概にまた故郷で生活を良好にしていきたいと考えていなかった。また移民を通じてc3, c4, c5, 故郷で生活出来るとc3, c4と気付き、故郷で生活の質を良くしたいc2^2と考えるようになったと語る。

②「オアハカ州外メキシコ国内での出稼ぎ経験有り」の事例（回答者i）
回答者iは10歳の時に家族と共に首都メキシコシティに移住した。約30年間現地で暮らしたあとも一度近郊のトラヒアコに移り住み、その後再び故郷のサン・フアン・ミステーニックで暮らしている。当時を振り返り首都へは行きたくなかったc2^2と語る。理由としては故郷でもっと働き続けたくったかったc2^2こと、またスパイン語ができなかった為に不安であったc2^2ことを挙げていた。しかしメキシコシティに移住したあとは故郷に仕事がありすぎないc2^2ことを考えると現地に残りたくあったc3, c12と考えていたようだ。また、30年間の生活を経て現地での故郷の習慣を忘れ去ってしまっていた為に故郷の生活に慣れることが無く不安であったc2^2と思う。しかし今では故郷に仕事がありc3、4、また家族と一緒に過ごせるc2^2という理由から故郷に住みたいc2^2と思うようになっている。

③「オアハカ州でだけ出稼ぎ経験有り」の事例（回答者k）
回答者kはサン・フアン・ミステーニックのロス・テホトステという集落で生まれ、学校を卒業したあとに近郊のトラヒアコで8年間働いた。近郊のまちに出稼ぎを始めた当時を振り返り、故郷で出なかったc2^2ものの雇用機会がなかった為に仕方がなかったc2^2と語っていた。しかし出稼ぎを始めてからは、故郷近くで働きたいがしこの地域に慣れていくc2^2と語っていた。
4-4 特徴的な回答の組み合わせに関する考察
出稼ぎに出た当時と現在での移民に対する意識の変化
1) 「移民はしたくて」× 「故郷に住みたい」のパターン
このパターンに該当する回答者は、出稼ぎに出た当時、故郷に住みたいと答えた回答者が pedig約2割を占めていた。この結果は、出稼ぎに出た当時の移民に対する意識が、現在では故郷に住みたいという意識が強まったことを示唆するものである。
2) 「移民に残りたくなかった」× 「故郷に住みたい」と答えた回答者が約1割を占めていた。この結果は、出稼ぎに出た当時、故郷に住みたいという意識が、現在では出稼ぎに出た当時の移民に対する意識が弱まったことを示唆するものである。

5 章 住民の意識から見る移民行動と先住民集落の関係性

5-1 章目的
本章では、3-4章にて見られた特徴的な5つのテーマに関して考察を行っていく。

5-2 方法
特徴的な3つのテーマについて、ヒアリング調査の回数や、その組み合わせパターンに着目し、さらに2章から得られた実態を踏まえて分析した。

5-3 家族の存在意義から見る住民にとっての携帯電話の位置づけ
1) 教育の改善、市民団体の支援により地域の地産地消は強化され、住民は移民をしない権利がある。
2) 教育の改善、市民団体の支援により地域の地産地消は強化され、住民は移民をしない権利がある。